

日本原子力研究開発機構（JAEA）大洗研究開発センターで被ばくされた方の  
二度目の入院について

1. これまでの経緯

- (1) 6月7日に JAEA で被ばくされた作業員 5 名を、量研放医研で患者さんとして受け入れ。
- (2) 入院して、DTPA(注 1)治療、線量評価のための肺モニター(注 2)計測、バイオアッセイ(注 3)などの検査と治療を実施。
- (3) 当初予定していた治療が終了した後、容態に特段の変化がないことや検査結果などを勘案して、退院可能な状態であると判断し、6月11日以降、患者さんにご家族に検査結果を説明。
- (4) 患者さん全員が退院の意思を示され、6月13日に全員が量研放医研を退院。

2. 二度目の入院について

- (1) 6月16日に量研放医研の担当医が JAEA（大洗）を訪問し、退院された患者さん全員の血液を検査のために採取。その際に全員に二度目の入院を勧めた。理由は下記のとおり。
  - ①肺モニター計測ではプルトニウムによる内部被ばくを明確に検出できなかったが、さらに高い感度で検出できるバイオアッセイ検査では、全員の尿からプルトニウムが検出され、内部被ばくがあったと推定されること
  - ②今後、線量の評価が必要ではあるものの、検出された量はごく微量である。一方で、上記は DTPA 治療の効果があったものと認められるので、入院して 2 クール目の治療を実施することが適当と判断されること
- (2) 6月18日までに、患者さん全員が量研放医研に入院し、診察と治療を開始した。患者さんの体表面汚染は確認されず、またバイオアッセイ検査を継続するため、排泄物は全量を量研放医研で回収している。
- (3) 6月19日現在、患者さんの容態に退院したときからの変化は見られていない。

## 用語解説

### 注 1

#### DTPA

ジエチレントリアミン 5 酢酸（英語名：Diethylene-triamine-pentaacetic acid）。

体内に取り込まれたプルトニウムの体外排泄を促す効果があるとされる、キレート剤と呼ばれる薬剤。プルトニウムを積極的に排出し、内部被ばくの量を減らす効果が期待される。

### 注 2

#### 肺モニター

肺に吸入沈着したプルトニウム等の放射性物質を計測するための装置。プルトニウム (Pu) の場合は Pu-239 から放出される平均 17keV の低エネルギー X 線を検出する。

### 注 3

#### バイオアッセイ

個人の被ばく線量評価のため、尿、便など人体からの排泄物中の放射性核種の放射能を分析する方法。